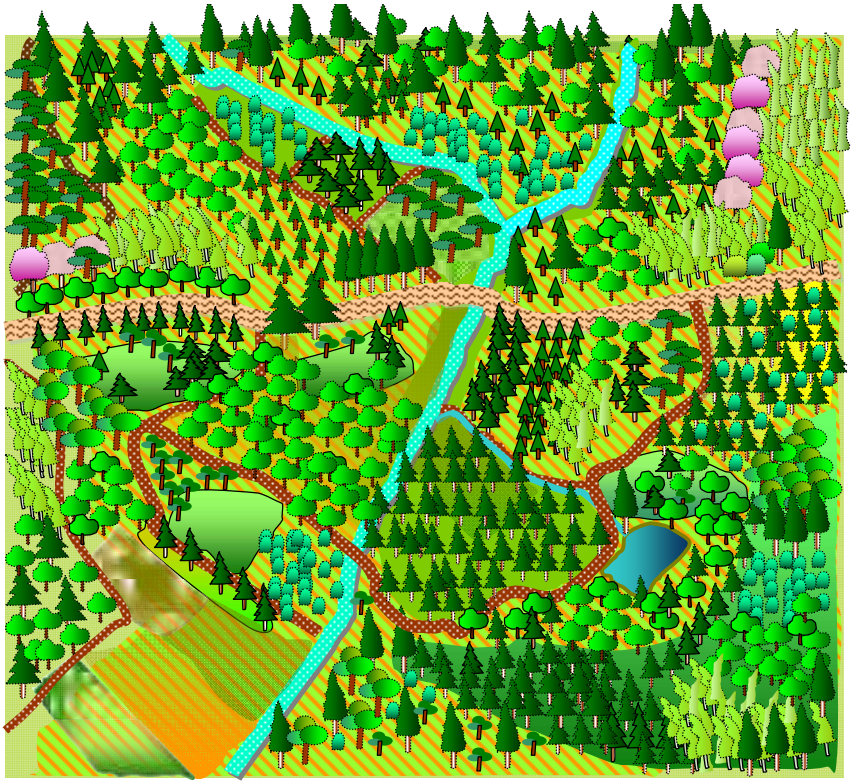
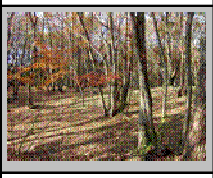
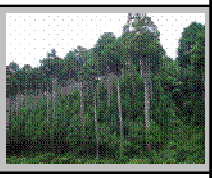
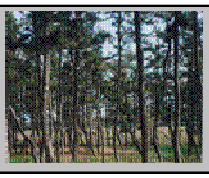


図－９　ちばの郷土に合った多様な森林のイメージ

（２）森林生態系と林相からみた目指すべき森林

千葉県の自然環境で成立可能な林相は、次の５つの林相である。それぞれの地域条件や森林の利用目的等に合わせ、目指す森林を決定する必要がある。

林相	常緑広葉樹優占林	落葉広葉樹優占林	常落針広混交林	針葉樹優占林		竹林
				スギ･ヒノキ林	マツ林	
優先樹種	高木層にスダジイ、シラカシ、アカガシ、アラカシなどの常緑広葉樹が優占する森林	高木層にコナラ、クヌギ、イヌシデ、ヤマザクラ、アカメガシワなどの落葉広葉樹が優占する森林	常緑および落葉の広葉樹、モミ、スギ、ヒノキなどの針葉樹からなる多様な高木層をもつ森林	高木層に木材生産を目的とするスギ、ヒノキが優占する森林	高木層にアカマツ、クロマツが優占する比較的明るい森林	モウソウチク、マダケ、メダケ等のタケ類が優占する森林
例						
管理方法	本県の極相林、手を加えないと常緑広葉樹林となる。林内が比較的暗くなると亜高木層以下の階層構造があまり発達しないため、防災上も密度管理が必要である。	放置した場合には遷移により次第に常緑樹林化するため、明るい森林を維持するためには恒常的な抜き切りが必要である。	放置した場合には遷移により次第に常緑樹林化するので、維持のためには抜き切りが必要である。	高齢、高木林化して立木密度を低下させ、林内を明るくして階層構造が発達した森林にする。	防災林以外は、立木密度を低下させ、林内を明るくして多様な樹種を侵入させ階層構造が発達した森林にする。	根系の伸長により周囲の森林に侵入し、スギ･ヒノキ人工林、広葉樹林が竹林化する場合もあるため、区域管理が必要である。
主な機能	手を加えない森林、生物多様性に富む森林、水源林	景観林、里山林、原木林等	水源林、手をあまり加えず大径木等の生産も目的とした森林	生産を目的とした森林	防災林、景観林	生産を目的とした竹林

図－１０　林相と利用形態による区分

①常緑広葉樹優占林（高木層にスダジイ、シラカシ、アカガシ、アラカシなどが優占する森林）

かつては薪炭林として利用されていたところもあるが、千葉県の本来の自然植生である。特に積極的な利用